

### <主要株価指数>

|             | 終値        | 前日比     |
|-------------|-----------|---------|
| 日経平均※       | 15326.67  | -152.26 |
| N Y ダウ      | 16,659.25 | -334.97 |
| D A X (独)   | 9,005.02  | 9.69    |
| FTSE100 (英) | 6,431.85  | -50.39  |
| CAC40 (仏)   | 4,141.45  | -26.67  |

### <外国為替>※

|       |           |         |
|-------|-----------|---------|
| ドル円   | 107.87 円  | 0.03 円  |
| ユーロドル | 1.2693 ドル | 0.00 ドル |

### <長期金利>※

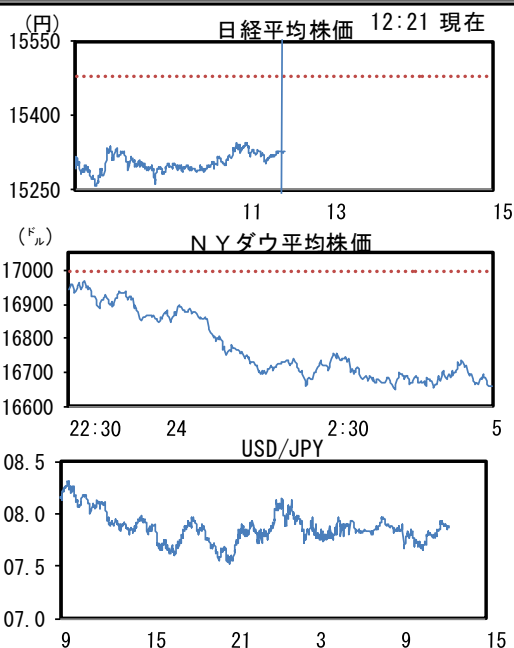
|      |         |          |
|------|---------|----------|
| 日本   | 0.496 % | 0.004 %  |
| 米国   | 2.313 % | -0.008 % |
| 英国   | 2.262 % | -0.002 % |
| ドイツ  | 0.906 % | -0.001 % |
| フランス | 1.250 % | -0.011 % |
| イタリア | 2.312 % | -0.022 % |
| スペイン | 2.075 % | -0.025 % |

### <商品>

|        |            |          |
|--------|------------|----------|
| N Y 原油 | 85.77 ドル   | -1.54 ドル |
| N Y 金  | 1224.60 ドル | 19.30 ドル |

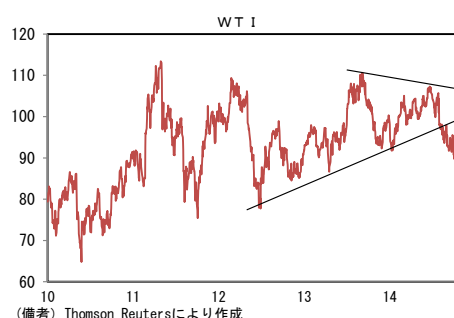
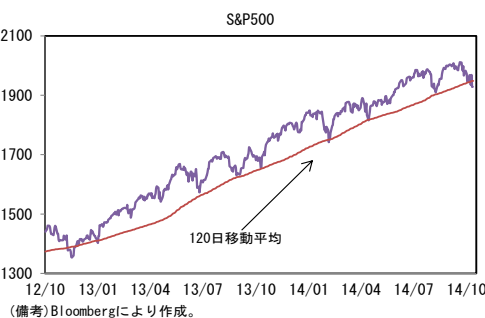
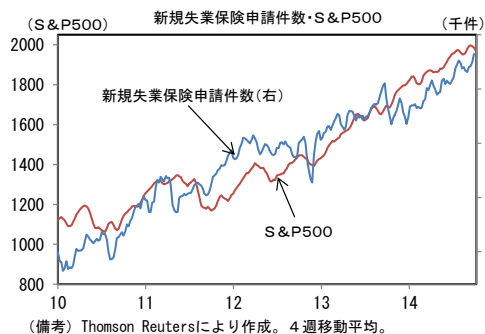
※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg



## 【海外株式市場・経済指標他】 ～サポートライン割れ～

- ・N Y ダウ平均株価は前日比▲334.97ドルの16659.25ドルで取引終了。投資家マインドが急速に冷え込むなか、ほぼ一貫して売り優勢。S&P500は重要なサポートライン（120日移動平均線）を下方ブレイク、原油も大幅続落。
- ・新失業保険申請件数は28.7万件と前週（28.8万件）と同水準をキープ。4週移動平均は28.78万件と景気後退後の最低を9週ぶりに更新。過去数週の発表分にノイズは混入しておらず、直近のデータは実勢を反映している。そのため現下の減少傾向を素直にポジティブ視すべきだ。新規失業保険申請件数は雇用統計と比較して過去分の修正が軽微でかつ振れが小さく、そして何よりも公表頻度が高く速報性にも優れているため重宝する。失業保険申請件数の公表時こそ市場は大きな反応を示さないが、結果的に米株と強い連動性を維持している。これは新規保険申請件数が米経済の実態を正確に映し出していることの証左だ。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

## 【外国為替相場・債券市場】～ドイツ：輸出下振れ～

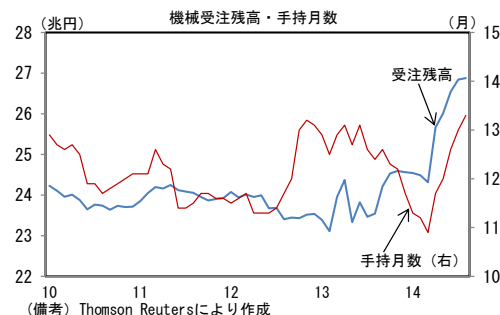
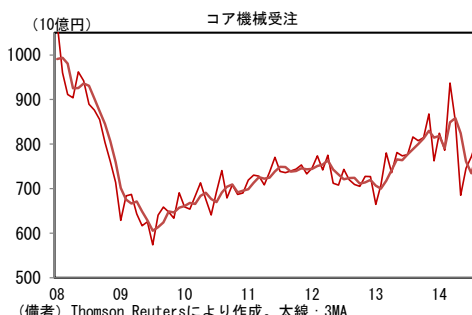
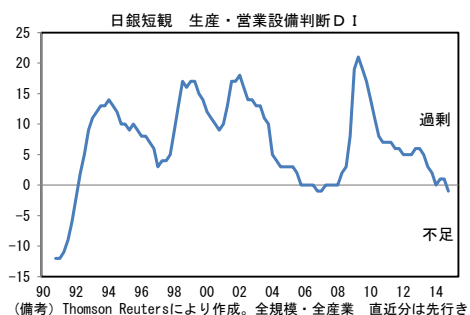
- ・前日のG10通貨はJPYが全面高でそれにUSDが続いた。USD/JPYは日本時間から下落開始、欧州時間に米金利が一時2.3%割れまで低下すると107.53まで水準を切り下げ、その後、米指標の改善もありやや持ち直したが、米株が大幅下落するなか108を回復できずにNYクローズ。他方、USDはその他通貨に対しては強くEUR/USDは再び1.26台まで下落した。10日日本時間でUSD/JPYは107後半で一進一退。
- ・米10年金利は▲0.8bpの2.313%。欧州債ラリーに追随して一時2.3%を割り込んだが、その後は米指標改善を受けて低下幅縮小。前日のFOMC議事録も引き続き意識されたとみられる。欧州債市場は総じて堅調。独10年金利が0.9%を割れて推移するなかでGIIPS債もラリーし、対独スプレッドは縮小。経済指標は8月独貿易統計で輸出が前月比▲5.8%、輸入が▲1.3%と失望的な結果となり、ドイツ並びにユーロ圏経済のダウンサイドリスクを増幅。輸出の7-8月平均は2Q平均を+2.3%上回るっているものの、既発表のサーベイ指標や生産統計の軟調さから判断すると先行きのリスクは下向きと判断せざるを得ない。

## 【国内株式市場・経済指標他】～上値追いは慎重か～

- ・日本株は米株安を受けて安寄り後、下落幅拡大。
- ・来週の日本株は引き続き神経質な展開となろう。市場全般でボラティリティが上昇、投資家のリスク許容度が低下するなかUSD/JPYは下落し易く、日本株は打撃を被りそう。下値では魅力的なバリュエーション（PER13倍前半）が支えとなり押し目買いも膨らみそうだが、上値追いにはかなり慎重だろう。経済指標では10月ロイター短観の製造業D Iに注目。9月に10ptも急落したが、その反発力を見極めたい。

## 【注目点】～株価下落をよそに～

- ・目下、日米欧株、USD/JPY上昇は調整局面入りが確実な状況。欧州指標のネガティブサプライズが頻発するなか、世界経済の減速懸念が俄かに高まり原油価格の下落も顕著だ。原油価格下落が米インフレ期待を下押しすることで米金利低下が助長されており、米金利低下とUSD/JPY下落が併存し易い状況だ。本来、原油価格下落は選択的支出を刺激するため先進国の消費にポジティブな要素だが、投資家心理が悪化している下では“世界経済悲観論”として認識され易い。また、最近フォーカスされている欧州経済減速については、米欧PMIの又裂（またさき）状態が示すよう、米経済回復の波及効果が弱くなっている可能性が指摘される。これは日本の輸出が伸び悩み、結果として日本の内需への波及効果が弱くなっていることと似通った現象だ。米経済加速＝世界経済加速という方程式に疑問が投げかけられている。
- ・しかしながら、そうした悲観論に修正を迫るデータも多い。直近では米国の新規失業保険申請件数と日本の機械受注だ。新規失業保険申請件数は上述のとおり米経済の強さを測定するうえで有効なツールでその改善を素直に好感することは合理的な選択と言える。機械受注については直近に3ヶ月連続増加して日銀短観で示されたとおり、日本企業の設備投資意欲が根強いことを裏付けた。また「外需」の強さは米国並びに世界経済が回復力を増していくとのシナリオをより描きやすくする。機械受注統計をやや仔細にみると、足もとでは受注残高が急増し、手持月数も伸びを高めている。国内外の設備投資意欲が反映されていると考えるのが自然だ。資本財受注残高の積み上がりは国内外経済の回復力を見極めるうえで極めてポジティブな要素であり、目下の世界経済減速懸念、並びにリスクアセットの下落に疑問を投げかけている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。